



巡回バス「キャロッピー号」のダイヤとバス停が変わります

☎ 総合政策課 総合政策係 ☎ (232) 2112



巡回バス「キャロッピー号」は平成26年10月に一部を見直し、見直しから本年9月までの1年間で約32,400人が利用しました。さらに利用しやすいバスにするため、12月1日からダイヤなどを一部変更します。

さらに利用しやすい巡回バスへ

バス停の新設や利用者数の多い路線を増便します。この変更で運行時刻も変わります。

希望する利用に合わせたあなただけの「マイ時刻表」の作成やバスの利用の仕方などを職員が説明する「出前講座」は引き続き行います。ぜひご利用ください。

■西部線を1往復増便

利用者が多い向陽台と菊陽町図書館を往復する西部線を午前中に1往復増便します。これにより光の森町民センターを利用しやすくなります。

■バス停の名称変更

バス停名「光の森二丁目」を「キャロッピー」に変更します。

■バス停の新設

①武蔵ヶ丘団地内にある「ほっとステーション前」



②九州産交バス(株)の営業所「光の森産交」

営業所内にバスが止まります。



■ダイヤ改正

西部線の増便やバス停の新設でダイヤが一部変わります。詳しくは「広報きくよう」12月号と一緒に配布される「菊陽町巡回バス時刻表」をご覧ください。

路線名	主な運行ルート	運行业者
中央循環線	図書館～光の森～役場	産交バス
東部循環線	図書館～原水新町～戸次～道明～ひばりヶ丘	
南部循環線	図書館～三里木～原水駅～鼻ぐり井手公園	
北部循環線	図書館～新山～沖野～鉄砲小路～古閑原	電鉄バス
西部線	図書館～光の森～武蔵ヶ丘～向陽台	
南部線	戸次～曲手～道明～辛川	産交バス

バスの現在位置が分かる！ バスロケーションシステム「いまココ」

キャロッピー号の現在位置や運行状況などをスマホや携帯電話、タブレット、パソコンから見られます。

■利用方法

- インターネットでバスロケーションシステム「いまココ」にアクセス
検索「バスロケ いまココ」
・スマートフォンや携帯電話のバーコードリーダーでQRコードを読み取る
・町ホームページから「いまココ」にアクセス
- 画面上の地図にバスの現在位置が表示される
- 調べたいバスや路線、出発・到着バス停を選択する

■注意事項

サービス料は無料ですが、通信費用は別途必要です。一部携帯電話では閲覧できない場合があります。



菊陽町人口ビジョンと総合戦略策定

☎ 総合政策課 総合政策係 ☎ (232) 2112

町の将来的な課題に対応し、さらなる発展のために、菊陽町人口ビジョン(以下、人口ビジョン)と、菊陽町まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下、総合戦略)を策定しました。

人口ビジョン

町の人口増加率は一定程度縮小

国立社会保障・人口問題研究所(以下、社人研)の推計によると、国の人口は今後減少し、2100年には約5千万人までに減少するとされています。

全国的に人口が減少する中、町の人口はことし4月に4万人を超え、現在も増加しています。社人研は町の人口を2040年には43,258人と増加するものの、人口の増加率は一定程度縮小すると推計しています。

2040年に人口48,968人

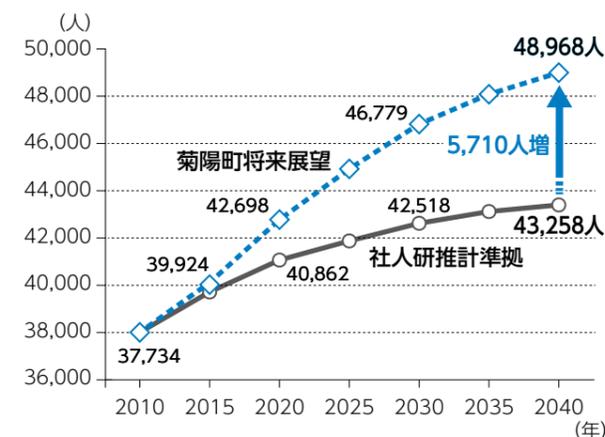
町は、20歳～40歳代の居住者や転入者などの子育て世代が多く、人口増加が続いていると分析。しかし、高齢化の進行や若年女性人口の減少の懸念、転入・転出による社会増が減少傾向という課題を把握しました。

課題解決のための施策を講じることで合計特殊出生率を向上させ、転入者の増加を図り、2040年の人口を48,968人に増加させることを町の将来展望としました。

※合計特殊出生率：一人の女性が一生の間に生む子どもの数。
全国1.38、熊本県1.61、菊陽町1.82(2008年～2012年)

■菊陽町総人口将来展望

2040年の本町の将来展望を社人研の推計よりも5,710人多い48,968人とした。



総合戦略

町の地方創生に4つの柱

地方創生の5カ年計画である「総合戦略」を進めるため、4つの基本目標と数値目標を定めました。

基本目標	数値目標
①菊陽町にしごとをつくる	平成31年度の人口に対する生産年齢人口の比率61.2%
②ひとが集い賑わう魅力的なまちをつくる	平成31年度までに菊陽町の人口を42,143人に増やす
③子育て世代、高齢者が安心して暮らせるまちをつくる	平成27年度～平成31年度の5年間の出生数を2,487人
④地域の連携により、更なる好循環をつくる	平成31年度までの県や他自治体との新規連携事業数5事業

基本理念は「町にしごとが生まれ、ひとが集い、活気あふれるまち」。基本目標の実現に向けて①しごとを応援するまち②海外との交流がさかんなまち③住んでよかったと思えるまち④ひとで賑わうまち⑤子育て世代に優しいまち⑥高齢者が安心できるまちの6つを具体的施策として取り組みます。詳しくは「広報きくよう」1月号でお知らせします。

Q. まち・ひと・しごと創生とは？

A. 人口減少を食い止めるための地域の施策。

国は少子高齢化と人口減少に歯止めをかけ、東京圏への人口一極集中を解消するため、「まち・ひと・しごと創生法」を制定。人口の現状を分析し、展望を示した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」や日本の課題を解決するための基本目標や具体的な施策を示した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」をつくりました。

町は将来の課題に対応し、発展するために産業界、行政、学識者、金融機関、労働関係団体、報道機関、区長会、婦人会、PTA連絡協議会、社会福祉協議会、議会などの代表者で構成された推進会議を設置し、4回の会議を通して意見を伺い、「総合戦略」を策定しました。